

観光スタンプについての研究 —綿抜研究室所蔵「観光スタンプ帳」を中心に—

山崎 千歳

1. はじめに 日本の産業において重要な位置をしめるものの一つに「観光」がある。各地域への宣伝、誘致活動の一つに、観光スタンプ・風景印が存在する。「観光スタンプ」は法的な効力を持つ「郵政スタンプ」とそうでないスタンプに分けることができる。「郵政スタンプ」とは、郵便局で消印として使用される風景印である。後者については、特別な名称がないため、本稿では以下「私的観光スタンプ」と称する。両スタンプは図像を通して地域に関する情報を提示している。観光スタンプは、歴史的に、あるいは新たなるスタンプのアイデアのもととして無視できないと考えられるが、今日まで、それらについてほとんど研究がなされてこなかった。

2. 研究方法と研究結果 綿抜研究室に所蔵される「観光スタンプ帳」10冊を研究対象とする。各冊のメタ情報と押された観光スタンプの特徴を明らかにする。当該資料のスタンプ等の画像をスキャナーで取り込み、その画像一つ一つをエクセルに貼り付け、「一覧表」を作成した。本論では、印影の描画要素を分解し、その構成について考察するために、図案の最小構成単位をモチーフとして定義する。地域の描かれ方の特徴を分析するため、407点のスタンプを次の五つに分類した。

- (1)景観スタンプ 実際にある景観、もしくは創作が加えられた景観を描いているスタンプ。
- (2)モチーフスタンプ 一番多いスタンプの描画方法である。地域に関連するモチーフを寄せ集めることでその地域を表しているスタンプ。
- (3)景観モチーフスタンプ モチーフと景観を組み合わせているスタンプ。
- (4)単一モチーフスタンプ 一つのモチーフだけでスタンプが構成されているスタンプ。
- (5)その他のスタンプ 歴史や逸話上の出来事の場面を描いたスタンプ。

3. 結論 「観光」は、「極めて重要な成長分野」であり、「訪日観光の振興と同時に、国内旅行振興も重要」とされる。そのためには「地域が一丸となって個性あふれる観光地域を作り上げ、その魅力を自ら積極的に発信していく」ことが不可欠であるとされる。その一助として、かつて多くつくられた私的観光スタンプに注目し、そのデザインを再利用できないかについて調査・分析した。調査対象は綿抜豊昭教授の研究室に所蔵されるスタンプ帳10冊におかれた観光スタンプである。調査した結果、今後の課題としては、観光スタンプの利活用をはかるために、またあらたなデザインをつくるために検索しやすいデータベースの構築が必要であることがわかった。また、観光絵葉書のデータベースとリンクできるシステムを開発する必要があるとより有益なものとなることがわかった。それらについては今後の課題としたい。

(指導教員 綿抜 豊昭)